

文部科学省が全小中学校の小学6年生の児童・中学3年生の生徒を対象に、国語と算数・数学の2教科について「知識（A問題）」「活用（B問題）」に関する学力調査及び、質問紙による児童・生徒の学習状況等について調査を実施しました。

- ・A問題…身につけておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容で、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能に関するもの
- ・B問題…知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、実践・評価・改善する力をみるもの

教科に関する調査

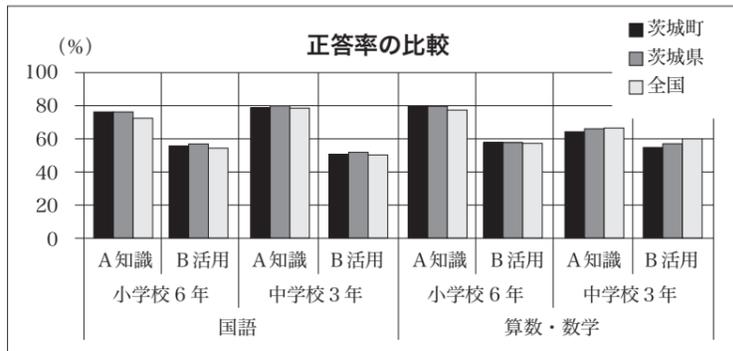
国語

1 小学校（参加児童数283名）

- ・全体的に全国を上回り、漢字を正しく書くことや、故事成語の意味や使い方の習熟が図られていると考えられます。
- ・課題として、県と比べるとB問題はやや下回っています。特に、二つの詩を読み比べ感想を述べる問題では約3割の児童が無答であるなど、文章で表現することに苦手意識をもっている児童が多いようです。

2 中学校（参加生徒数284名）

- ・全体としては、A問題は全国と同じ、B問題は0.6ポイントを上回っており平均してよくできています。
- ・資料を読みとり文章で正しく伝える問題では、23.7%で全国を下回り、無答率も約2割で、文章で表現する力が十分についていないと言えます。



算数・数学

1 小学校（参加児童数284名）

- ・A問題は全国を2.6ポイント上回っており、どの領域も良好。特に計算の問題すべてで全国を上回っていることから、日頃の計算練習の成果が表れていると考えられます。
- ・B問題は、全体としては全国とほぼ同じでしたが、問題を最後まで読まずに答えを書く、導きだした答えが問題の条件にあっているか確かめずに答えるなど、問題解決に対して丁寧さに欠ける傾向がみられます。

2 中学校（参加生徒数284名）

- ・A問題B問題ともに全国を下回っています。正答数の分布をみると3か所の山がみられ、個人差が大きいことがわかります。答えを求める道筋を考えたり、説明したりする問題や証明問題などでの活用する力の問題の正答率が低く、また無答率も高い傾向がみられます。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

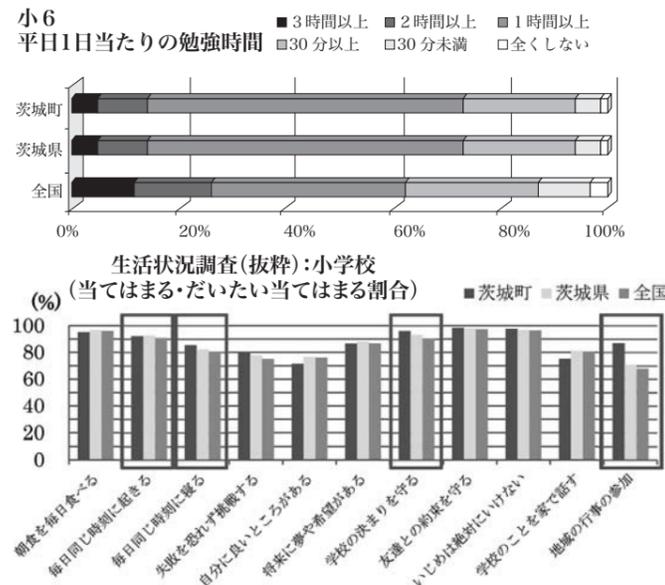
小学6年生

1 学習に関すること

- ・国語・算数ともに「勉強が好き」、「授業の内容がよくわかる」は、全国を上回っています。
- ・家庭学習では、「授業の復習をしている」「自分で計画を立てて勉強している」は、全国に比べて高い回答でした。
- ・家庭学習の時間については、2時間以上が約15%で、全国の25%に比べてだいぶ少ない状況です。

2 生活に関すること

- ・就寝・起床時刻の決まった児童の割合が高い半面、朝食を取らない児童の割合が増加しています（平成21年3.0%、平成25年3.7%、今年度4.9%）。



- ・「学校に行くのは楽しい」「人の気持ちが分かる人間になりたい」は今年度全国を少し上回りました（前年度は平均を下回っていた）。
- ・「自分にはよいところがある」という質問では、今年度も全国に比べ低い状況でした。
- ・「1日当たり2時間以上テレビゲーム等をしている」割合が全国を上回っています。このことは、1日当たりの勉強時間に大きく影響していると考えられます。

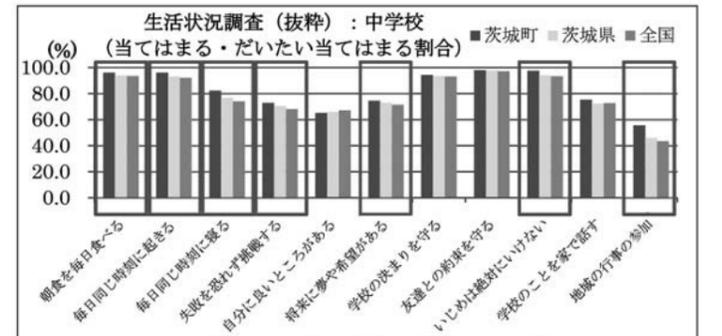
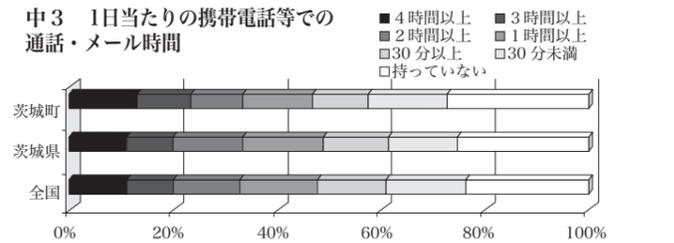
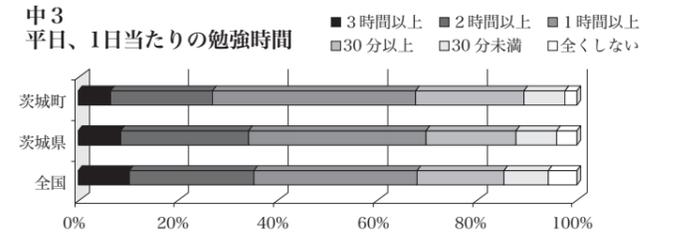
中学3年生

1 学習に関すること

- ・国語について、「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」の割合が全国を上回っており、それが正答率に関係していると考えられます。
- ・数学については全体的な学力の低下が考えられます。「勉強は大切である」「授業の内容が分かる」の割合は全国を上回っているものの、正答率は全国を下回っていることから、学力向上に向けた多面的な取り組みが必要と思われます。
- ・家庭学習の時間は不十分な状況です。平日2時間以上、休日3時間以上勉強する生徒は全国を下回っています。

2 生活に関すること

- ・朝食を毎日食べている生徒は96%で、就寝・起床は同じ時刻の生徒が多くいます。
- ・「学校に行くのが楽しい」は、全国を大きく上回っています。
- ・昨年度全国に比べて下回っていた「将来の夢や目標をもっている」「失敗を恐れずに挑戦している」は、全国を上回りました。
- ・「自分にはよいところがある」は、今年度も下回る結果でした。
- ・普段テレビの視聴が3時間を超える生徒、テレビゲームなどを2時間以上する生徒の割合がともに4割近くに上り、全国より高い状況にあります。さらに、普段携帯電話やスマートフォンでメールや通話をする時間が3時間を超える生徒が全体の4分の1の割合で、全国より高い状況です。



全国的にみても規範意識の高い生徒の方が正答率が高いという結果が出ていることから、学力向上を図るためには、心の教育が不可欠であると思います。また、前述のとおり茨城県の子どもたちは、テレビゲーム、携帯・スマートフォンの使用時間が長く家庭学習の時間が短いのが顕著なので、家庭生活の見直しが必要であると思われます。

教育委員会と学校での取り組み

- 一人ひとりの学力の充実
 - ・個に応じた指導を心がけて、習熟度別学習をできるだけ取り入れています。
 - ・教材の工夫や課題提示を工夫し、子どもたちの意欲を高める授業をしています。
 - ・習熟度に応じた問題を用意し、一人ひとりを伸ばす努力をしています。
 - ・授業の中で練習時間の確保をしています。
 - ・一人ひとりの発表の機会を増やしています。ペア学習やグループ学習によって、考えを深めたり広めたりする工夫をしています。
- 心を育てる教育の充実
 - ・規範意識を高め、善悪の判断がしっかりでき、モラルの高い人を育てます。
 - ・自ら困難を乗り越えようとするたくましい心を育てます。

家庭へのお願い

- ・家庭学習時間の確保をお願いします。
- ・「自分にはよいところがある」と思える成功体験や温かい家庭の雰囲気大切にしてください。
- ・人としての在り方（規範意識、社会のマナー）を身につける家庭教育をお願いします。

地域へのお願い

- ・子供たちへの声かけや安全を見守る地域の環境づくりをお願いします。
- ・善悪をしっかりと教える地域の大人の存在が大切です。